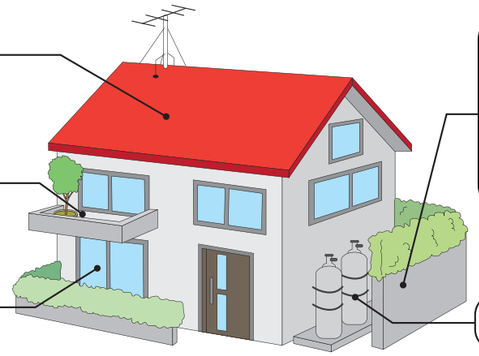
地震に備えよう

わが家の地震対策

家の周囲の安全対策



屋根
不安定な屋根のアンテナや屋根は補強しておく

ベランダ
植木鉢などの整理整頓をし、落ちる危険がある場所には何も置かない

窓
飛散防止フィルムをはる

ブロック塀・門柱
土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なため補強する
ひび割れや鉄筋のさびも修理する

プロパンガス
ボンベを鎖で固定しておく

家の中の安全対策

① 家の中に逃げ場としての安全な空間を作る
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

② 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

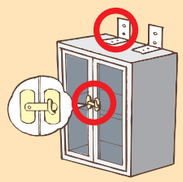
③ 家の中でケガをしない対策を
食器棚等の転倒によって、ガラスが散乱する場合があるため、リビングや寝室等にスリッパなどを用意しておく。

④ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろものを置くと、いざというときに出入口をふさいでしまうことも。

家具の転落、落下を防ぐポイント

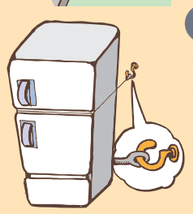
タンス・本棚
L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。

食器棚
L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。
重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。

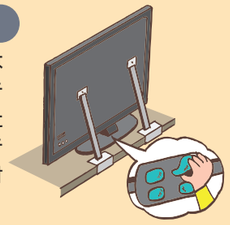


照　明
チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。

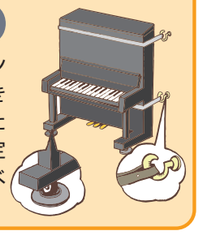
冷蔵庫
2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



テレビ
転倒防止バンドなどでテレビ台とテレビを固定したり、粘着パッドをテレビの足に貼り付けて固定する。



ピアノ
本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する脚には、すべり止めをつける。



地震直後に気をつけること

地震発生 ～ 2分	2分 ～ 5分	5分 ～ 10分
グラッと来たら 身の安全の確保	揺れがおさまったら 火の始末・出口の確保	わが家の安全確認・避難の準備
強い揺れを感じたら、まずは自分の身を安全に守れるように心がけましょう。 現在は震度5弱以上の揺れを感知すると、自動的にガスが止まるようになっているので、慌ててコンロの火を止める必要はありません。大きな揺れの中、無理に消すそうとするのはやけどをするおそれがあり大変危険です。	揺れがおさまったら、火の始末を行いましょう。必ず消火器を備え、すぐに使用できるところに置いておきましょう。 消火器の使用方法は、日頃から確認しておきましょう。 また余震に備え、ドアを開けるなど出口の確保を行いましょう。	家族や隣近所の安全を確認しましょう。余震で被害拡大のおそれがある場合はすぐに避難を開始しましょう。 避難する場合には、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉めてから避難しましょう。 外出中の家族のために避難先や安否情報を書いたメモを残すことも大切です。

火災が発生したら…

①大声で知らせる

「火事だ！」と大声を出して、隣近所に助けを求めましょう。
小さな火でも 119 番に通報しましょう。

②初期消火を試みる

ボヤでおさまるのは、出火から３分以内が限度。
それまでに様々な手段を用いて消火を試みましょう。

③すばやく逃げる

天井に火が燃え移ったら
初期消火は中断し、煙を吸い込まないよう低い姿勢で直ちに避難しましょう。

通報をするときは、冷静に、火災やけが・病人等の状況をできるだけくわしく伝えましょう!

火事？救急？	→	火事か救急の別をハッキリと伝えましょう。
場所をハッキリと！	→	住所の他に、目標物なども伝えましょう。
建物の種類は？	→	木造かビルか、また階数なども伝えましょう。
けが人などは？	→	事故や病気・けがの様子をくわしく伝えましょう。